

# 第5回国立研究開発法人イノベーション戦略会議 開催概要

主催：内閣府  
協力：日本政策投資銀行  
後援：国立研究開発法人協議会  
事務局：株式会社 NTT データ経営研究所

## X 開催にあたって

国立研究開発法人イノベーション戦略会議は、日本のイノベーション推進戦略において、国立研究開発法人（以下、国研）が果たすべき役割、課題を検討する会議です。5回目となる今回は、「科学技術イノベーション基本計画に向けての将来ビジョン～ポストコロナ時代を見据えた国研の将来像とチャレンジ～」と題して開催しました。

## X 開催形式

本会議は、講演・パネルディスカッション、の二部構成で開催しました。

ウェブサイト URL：<https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/5kokken.html>

### (1) 講演

総合科学技術・イノベーション会議の有識者議員、上山 隆大議員による基調講演、また各国研理事長のご講演を事前に収録し、ウェブサイトへの事前動画公開をしました。

### (2) パネルディスカッション

国研に所属する若手研究者、また国研ベンチャーを起こされた方をお招きし、若手の視線から国研の将来像や新たなチャレンジについて議論するという形でオンライン開催しました。

(1) 講演（ウェブサイトへの事前動画公開）	
基調講演	上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員）
理事長講演	松本 紘（国立研究開発法人理化学研究所 理事長） 石村 和彦（国立研究開発法人産業技術総合研究所 理事長） 橋本 和仁（国立研究開発法人物質・材料研究機構 理事長） 平野 俊夫（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 理事長）
(2) パネルディスカッション（令和3年2月4日（木）オンライン配信）	
15:30～15:35	開会挨拶 上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員）
15:35～16:55	パネルディスカッション 「科学技術・イノベーション基本計画に向けての将来ビジョン ～ポストコロナ時代を見据えた国研の将来像とチャレンジ～」  モデレーター：門村 幸夜（文部科学省 科学技術・学術政策研究所 客員研究官） パネリスト： ◆久米村 隼人（株式会社 DATAFLUCT 代表取締役社長）（JAXA 認定ベンチャー） ◆田中 裕介（株式会社オーシャンアイズ 代表取締役社長／国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球環境部門 海洋生物環境影響研究センター 東日本海洋生態系変動解析グループ 特任准研究員） ◆成瀬 康（国立研究開発法人情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター 脳情報工学研究室 室長） ◆南光 一樹（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林防災研究領域） ◆森崎 菜穂（国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部 ライフコース疫学研究室 室長）
16:55～17:10	総括・閉会挨拶 上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員）

## X パネルディスカッションを振り返って

パネルディスカッションは、上山 隆大議員のあいさつにはじまり、「新型コロナウイルス感染拡大の影響」、「社会のリ・デザイン」の2つのテーマについて、モデレーター門村 幸夜氏進行のもと、活発な議論が交わされました。主な発言は以下の通りです。



上山 隆大 議員



門村 幸夜 氏

- ・ 弊社は科学技術がわかるエンジニアが多いので、色々な企業から相談が来て、企業のデジタル化、DXの推進、データプラットフォームの構築等の案件で、どんどん食いつなぐことができました。主体的に事業の方向が衛星データ解析ではなく、データプラットフォーム、企業のデータ活用を推進の方向性になり、事業としては、順調に伸びているところが大きな変化と考えています。

- ・ 例えば食品廃棄ロスの問題をなくしたい、例えば強靱な都市開発をしたいという思い、あるいはカーボンニュートラルな社会を作りたい思いがあり自動車産業とか食品サプライチェーンとか、スマートビルというようなお客様のAIなどを実装しています。弊社の場合は、JAXA 認定ベンチャーですから、社会に良くなることをしたい、全体最適をしたいと考えるときに、社会全体が幸せになるアルゴリズム社会全体が幸せになる法則みたいなことを考えて、全体最適になるにはどうすればいいのか実は日々考えて、アルゴリズムの実装とかしています。

- ・ 私はもともと起業家からJAXAに入って、宇宙技術を活用しようという思いで事業をしています。多くの研究者が自分でやりたいことをやり続けるという思いをもってらっしゃる方が多く、好奇心を満たす方法として、国研ベンチャーがあるのではないかと考えています。



久米村 隼人 氏

- ・ 魚価の低迷を受けて次の一手を探している漁師さんもあり、漁師さん及び水産業の関連の方々から継続して問い合わせをいただき、オンラインでの面談も問題なく実施させていただいています。また、水産業に関しては、感染症拡大とは関係無く水産庁を中心にスマート水産業というのを進めていて、ICTを推進しているという部分もありました。その中で行政的にも現場の漁師さんとしても、また研究としても、様々なデータを収集して活用するという効率化を目指そうという動きがあったので、コロナ禍を機に加速されたと感じています。



田中 裕介 氏

- ・ 私達の計算の元となっているスパコンである地球シミュレータを、割と安価に使わせていただける、あるいは開発成果のライセンスを非常に安価に使わせていただけるという部分は国研ベンチャーとしてのメリットは大きいと思っています。また、JAMSTECは海洋科学技術に関する研究開発をやっている機関で、海の流れ、魚がどこにいるかという話だけではなく、深海を研究している人、海洋生物の研究している人、海洋の観測機器の開発をしている人がいる、そういうJAMSTECの職員と非常に繋がりがやすいです。企業から接触するとなかなか難しいところがあるかもしれませんが、私は半分JAMSTEC内部の人間なのでコミュニケーションが取りやすいです。そういう意味でインターディシプリナリティを最大限に活かせるのが国研ベンチャーであるかなという気もしています。